

泊発電所の再稼働に向けた取り組み状況をお知らせいたします

【審査への対応状況】

- ✓ 当社は、安全確保を大前提とした泊発電所の早期再稼働に向け、平成 25 年 7 月に施行された新規規制基準への適合に必要な安全対策工事を進めるとともに、原子力規制委員会（以下、規制委員会）による審査に真摯に対応しています。
- ✓ 現在、「発電所敷地内断層の活動性評価」「積丹半島北西沖に仮定した活断層による地震動評価」「地震による防潮堤地盤の液状化の影響評価」「津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響評価」などへの対応を進めています。各課題への対応状況は以下のとおりです。

【今後の対応】

- ✓ 当社は、電気料金値下げによるお客さまのご負担軽減、さらには電力の安定供給のために、早期再稼働を実現できるよう、引き続き、新規規制基準適合性審査対応に総力をあげて取り組んでまいります。
- ✓ 審査の状況や泊発電所の必要性などについてご理解いただけるよう、地域の皆さまとの対話やホームページや広報紙などさまざまな媒体を通じて、丁寧かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。

発電所敷地内断層の活動性評価

【課題】

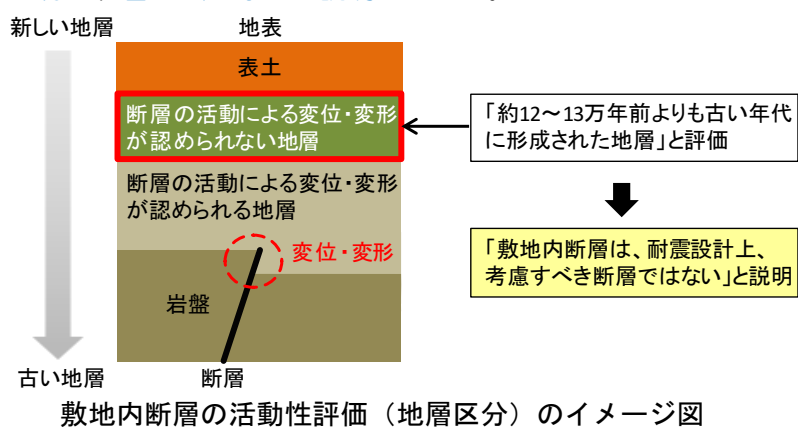
- 泊発電所の敷地内断層について、断層の上位に分布し、断層の活動による変位・変形が認められない地層が約 12~13 万年前よりも古い年代に形成された地層*であることを説明する。
※新規規制基準において、安全上重要な施設は、将来活動する可能性のある断層等（約 12~13 万年前以降の活動が否定できないもの）がない地盤に設置することが求められている。
- これにより、泊発電所の敷地内断層は、耐震設計上、考慮すべき断層ではないことを説明する。

【規制委員会コメント】

- 地層区分の評価などについて、より客観的な根拠を整理して、その評価に関する信頼性を高めること。

【今後の対応】

- 地層区分の評価に関する根拠の充実を図るための検討やデータ整理などを行い、審査会合などで説明していく。



敷地内断層の活動性評価（地層区分）のイメージ図



（トレンチ調査）



（ボーリングコアの観察）

原子力規制委員会による現地調査（平成 30 年 10 月）

積丹半島北西沖に仮定した活断層による地震動評価

【課題】

- 積丹半島西岸の海岸地形について、各調査・検討を実施してきたが、泊発電所の安全性をより一層高める観点から、積丹半島北西沖に活断層を仮定することとしており、その地震動評価について説明する。

【規制委員会コメント】

- 地震動評価における断層の方向などについて、より安全側の評価となるように検討すること。

【今後の対応】

- 仮定した活断層による地震動について、審査会合などで説明していく。



活断層の仮定位置

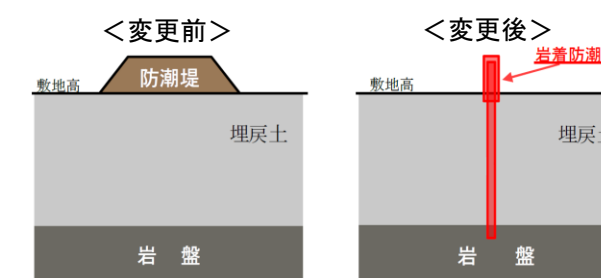
地震による防潮堤地盤の液状化の影響評価

【課題】

- 地震による地盤の液状化評価について、追加の地質調査結果の分析・評価、液状化による被害事例に関する文献整理などを実施し、説明する。
- 泊発電所の安全性をより一層高める観点から、岩着支持構造（堅固な岩盤の上に構造物を支持させる形式）による防潮壁に設計変更し、地震・津波に対する健全性の評価を説明する。

【今後の対応】

- 検討結果について、審査会合などで説明していく。



設計変更の概要

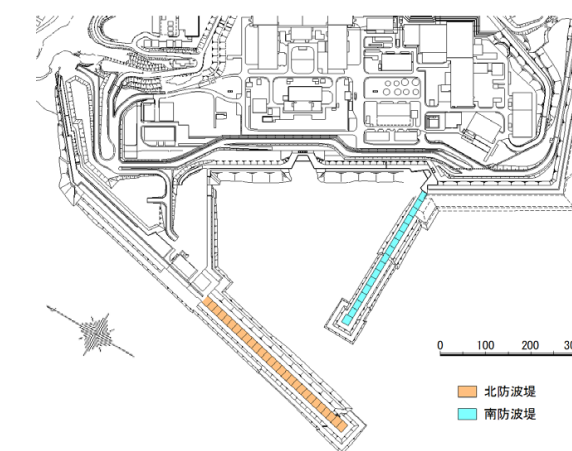
津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響評価

【課題】

- 津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響について、説明する。

【今後の対応】

- 防波堤の移動や沈下に関する解析や水理模型実験の結果を用いて審査会合などで説明していく。



泊発電所防波堤配置図